

# 道民カレッジほっかいどう学大学インターネット講座

## 「生活を守る地域住民たち～江別市シルバー人材センターが担う地域福祉～」

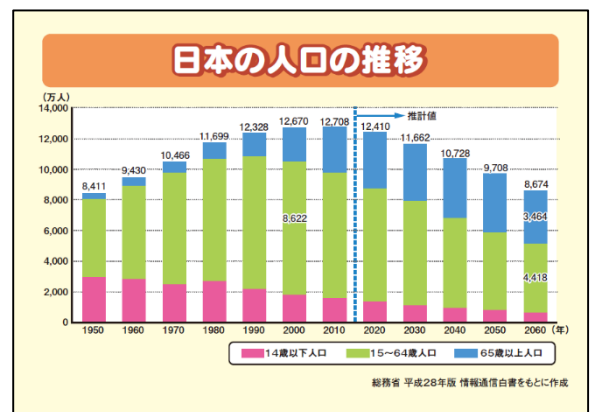
北翔大学 生涯スポーツ学部 尾形良子 准教授

### ◇ 講座の内容 ◇

- ・ 江別市のシルバー人材センターは地元の高齢者に仕事を紹介している。
- ・ 登録している会員が引き受けて仕事をするのだが、そのことが地域の人たちにどのように役立っているのかを考える。

### ◆ 高齢者の暮らしのイメージ ◆

- ・ 60歳から65歳くらいで退職して、そのあとは年金で生活するというイメージ。
- ・ 15歳から64歳までの人口を「生産年齢人口」と言うが、少子高齢化が進む中で、この生産年齢人口の減少が今後ますます深刻な問題となっていく。
- ・ このグラフは日本の人口を3つの年齢層に分けて示したもの。
- ・ 赤色の部分が14歳以下。
- ・ 緑が15歳から64歳までの生産年齢人口。
- ・ 青が65歳以上。
- ・ 赤、緑、青を足した全人口で見ると1950年から増え続け、2010年がピークで1億2700万人、その後はだんだん減り2060年には8700万人を割ると予測されている。
- ・ 緑の生産年齢人口についてみると2000年の8600万人がピークで、2060年にはおよそ半分の4400万人となる見通し。
- ・ 一方で青の65歳以上は2060年に3400万人を超え、全人口の40パーセントを占めることになる。
- ・ 人口が減少していくなかで、社会の活力を維持するために、働き手を確保しなければならない。
- ・ 厚生労働省の報告書では、65歳以降でも、働く意欲のある高齢者が、生涯現役で活躍し続けられるような雇用・就業環境を整えていくことが必要不可欠であるとしている。
- ・ そのためには、高齢者が働くことの積極的な意義を理解しつつ、多様な雇用・就業ニーズに対応して、本人の持つ能力と時間を最大限活用できる機会を提供していくことが重要で、シルバー人材センターの機能を強化することも必要な方向性のひとつと位置付けている。



### ◆ シルバー人材センターとは ◆

- ・ 会員である高齢者が働くことを通じて生きがいを得ると共に、地域社会の活性化に貢献する組織。
- ・ 市（区）町村単位に置かれている。
- ・ 都道府県知事の指定を受けた公益社団法人で、それぞれが独立した運営をしている。
- ・ 営利を目的としていない。
- ・ 定年退職者など健康で働く意欲のあふれた高齢者に、そのライフスタイルに合わせた臨時的かつ短期的、またはその他の軽易な業務を提供するとともに、ボランティア活動などの社会参加を通じて、高齢者の健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉の向上・活性化に貢献している。

## ◆シルバー人材センターの仕組み◆

江別市のシルバー人材センター

- ・仕事を依頼する方と、その仕事をする会員をコーディネートする役割を担う。
- ・依頼主がセンターに仕事を発注。
- ・その仕事にふさわしい会員を選定し仕事を提供。
- ・選定された会員は依頼主が発注した仕事を行う。
- ・仕事が完了すると、依頼主はセンターに料金を支払い、センターから仕事をした会員に配分金(報酬)が支払われる。



## ◆会員になるための条件◆

- ・江別市に住んでいること。
- ・原則として60歳以上で、健康で自ら進んで働く意欲があること。
- ・シルバー人材センターの理念・目的・趣旨を理解し賛同すること。
- ・入会説明を受け、入会申込書を提出すること。
- ・会員は、自分の体力・能力、希望に応じて働くことができる。
- ・「生きがいを得るための就業」を目的としているので、一定した収入(配分金)の保証はない。
- ・「自主・自立、共働・共助」の理念に基づき、会員の総意と主体的な参画により運営する組織。

江別市シルバー人材センターを取材してきました。(取材VTR)

## ◆高齢者などへのサービス◆

- ・江別市シルバー人材センターでは、高齢者や障害のある方などへのサービスとして、日常生活における、ごみ出しを1回100円で提供。
- ・エレベーターのない団地での灯油タンクの運搬代行を200~300円ほどで提供。
- ・高齢者のお宅では、電球の交換や、カーテンの付け替えなども自分達ではできないことも多く、今後そうした軽作業についても低料金で対応していきたいとお話していた。

## ◆シルバー人材センターが受注している仕事◆

技能を生かした仕事

- ・植木の剪定、雪囲い、花壇づくり、刃物研ぎ、大工・塗装など。

管理の仕事

- ・施設管理、駐車場管理、公園管理など。

事務の仕事

- ・宛名書き、アンケート調査など。

育児サービスの仕事

- ・子どもの世話、家事一般、幼稚園・保育園の送迎など。

福祉・家事サービスの仕事

- ・家庭内の掃除、病人の付添・通院介護、家事・介護サービス、留守番・買物、話し相手など。

軽作業の仕事

- ・草刈り、草取り、屋内外清掃、除雪など。

専門技術の仕事

シルバー人材センターの仕事	
■技能	植木の剪定 雪囲い 花壇づくり 刃物研ぎ 大工・塗装 など
■管理	施設管理 駐車場管理 公園管理 など
■事務	あて名書き アンケート調査 一般事務 受付事務 など
■育児サービス	子供の世話・家事一般 幼稚園・保育園の送迎 など
■福祉・家事サービス	家庭内掃除 病人の付添・通院介護 家事・介護サービス 留守番・買い物 話し相手 など
■軽作業	草取り 草刈り 屋内外清掃 除雪 など
■専門技術	家庭教師 パソコン指導 など
■折衝外交	店番 検針 集金 など

- ・家庭教師、パソコン指導など。

#### 折衝外交の仕事

- ・店番、検針、集金など。

- ・このように、さまざまな仕事をしているが、収益を目的としないので割安感がある。
- ・委託された仕事はシルバー人材センターとして責任をもって行う。
- ・安全に配慮し、高齢者に適さない危険・有害な仕事は受けられない場合がある。
- ・万一事故が発生した場合はシルバー人材センターが加入している『シルバー保険』で対応する。
- ・また、引き受ける仕事の幅を広げる中、人材派遣事業も行っている。

### ◆シルバー派遣事業◆

- ・江別市シルバー人材センターでは、平成 24 年度から新たに労働者派遣事業を実施している。
- ・1 か月未満の短期派遣にも対応していて、北海道の中で、最も多くシルバー派遣を受注している。
- ・これまでに、江別市内の企業、公共団体から人材派遣の依頼を受けて 20 か所以上、100 人以上の会員がシルバー派遣事業として就業している。
- ・働く時間を増やし、収入増を図っている人もいるようだ。
- ・企業と会員をコーディネートしている江別市シルバー人材センターが果たしている役割も大きい。
- ・このように熱心な活動を続けるセンターだが、さらにユニークな取り組みも行っている。

江別市大麻にある商店街で、空き店舗を活用した地域貢献を行っています。(取材 VTR)

### ◆まちなかサロン（元気プラザ’ S）◆

- ・家の中では話せないことまで近隣の方々と話し合い、おしゃべりをして楽しめる元気プラザは、高齢者のみなさんが最もくつろげる居場所となっている。
- ・おしゃべりは、シルバー人材センターの会員が仕事をする際、依頼者との間で自然に生まれるもの。

元気プラザ’ S で出会った 2 人の会員さんにお話を伺いました。(取材 VTR)

- ・地域の近所づきあいが希薄となり、気軽に話す機会が減っている中、シルバー人材センターの会員が訪問し、おしゃべりすること自体大きな意義がある。
- ・もともと、シルバー人材センターは地域社会に貢献することが目的とされているが、こうした会員による支援は地域住民が地域住民を支えていると言える。
- ・社会福祉の分野などで使う言葉に「ソーシャルサポート」というキーワードがあるが、これは人に対して与えられる支援という意味。
- ・ここでシルバー人材センターの会員がする仕事をソーシャルサポートの概念からみてみたい。

### ◆ソーシャルサポート 6 つの分類◆

- ・「ソーシャルサポート」というキーワードは、福祉のみならず医療・保健・心理や社会学など、さまざまな領域で用いられる概念。
- ・社会福祉の文献で紹介されている 6 つのサポート機能に沿ってお話する。

ソーシャルサポートの機能別 6 分類	
サポートの分類	サポート機能の説明
1 自己評価サポート	失敗したりして自分の能力に疑いをもった時、ダメだと思い込んでいる自分の状況を打ち明けることで自己評価を高める
2 地位のサポート	自分が何らかの役割を果たしていることで得られるサポート
3 情報のサポート	自分の抱えている問題に役立つ情報を提供してもらう
4 道具的サポート	実際の課題に対する援助の提供
5 社会的コンパニオン	ともにいる、一緒に出かけるなどの社会活動のサポート
6 モチベーションのサポート	根気よく何かを継続したり、解決に向かって進んでいけるようにモチベーションを高めるサポート

(福祉 180) の概念をもとに高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を営むことに向け、一部機能を定めて提供し、高齢者が 2011 年以降の活動に活用する地域福祉の推進に貢献。第 2 版 | 高齢者支援 2013

### ◆1 つ目が「自己評価サポート」◆

- ・失敗して自分の能力に疑いを持った時、ダメだと思い込んでいた自分の状況を打ち明けることで自己評価を高める。
- ・人が自分自身を価値ある存在だと感じさせるようなサポートのこと。
- ・仕事で失敗して落ち込んだり、人間関係がうまくいかないなど自信を失うような出来事に出会った時、誰かに話を聞いてほしい気持ちになると思う。
- ・このように自分の失敗などマイナスの出来事を話すことができる相手であり、失敗したとしてもあなたの素晴らしいところはたくさんあるのだということを伝えてくれるサポート。

#### ◆2つ目が「地位のサポート」◆

- ・自分が何らかの役割を果たしていることで得られるサポート。
- ・社会生活をする私たちはさまざまな役割を持ちながら生きている。  
(例：看護師のAさんは妻であり、母親であり、自治会の役員という役割をもっている)
- ・人は役割を持ち集団に属しているということで、社会から承認されていることを感じ取ることができる。
- ・自分が関わる人から言葉や表情、声のトーンなどのコミュニケーションによって、承認・確認をしてもらうことで成立する。

#### ◆3つ目が「情報のサポート」◆

- ・自分の抱えている問題に役立つ情報を提供してもらうというサポート。
- ・現代は多種多様な情報があふれているので、バラバラで使えないような情報をもらっても意味はない。
- ・ただ、本人が抱えている課題の解決にその情報が役立つ時に、情報のサポートといえる。

#### ◆4つ目が「道具的サポート」◆

- ・実際の課題に対する援助の提供。
- ・「物質サポート」とも呼ばれ、労働力や金銭など実際に目に見えるサポートを意味する。
- ・誰かが病気になった時、その人に食事を作ったり、食べさせたり、洗濯をしたり、掃除をしたり…というのは道具的サポート。
- ・お金がなくて困っている人、衣服や住まいが必要な人たちに、その必要としている「物」を提供すること。
- ・外出したい時に車を出してくれる人、車椅子での外出の時に押してくれる人は、この道具的サポートを提供してくれるといえる。

#### ◆5つ目が「社会的コンパニオン」◆

- ・ともにいる、一緒に出かけるなどの社会活動のサポート。
- ・買い物に行く、市役所へ行く、病院へ行くなどの時に誰かが自分と行動をともにしてくれるということによって、緊張せずにその外出自体を楽しめることがある。
- ・外出せずに家にいるときでも、誰かが隣に一緒にいてくれることは安心感をもたらしてくれる。
- ・こうしたサポートを社会的コンパニオンと呼ぶ。

#### ◆最後6つ目が「モチベーションのサポート」◆

- ・根気よく何かを継続したり、解決に向かって進んでいけるようにモチベーションを高めるサポート。
- ・慢性病や長期的な介護などストレスが継続するような状況において、一緒に困難な事態を乗り切っていくこうとする人がいれば、頑張る気持ちになることもある。

- ・今抱えているストレスを乗り越えるために励ましてくれる、努力がいつかは報われる、必ず成功すると言ってくれる、こうしたサポートが「モチベーションのサポート」。
- ・先ほど紹介した会員さんの仕事は、長年にわたって家に溜まった衣類の整理であった。
- ・依頼者の昔語りを受けとめながらの仕事。
- ・この仕事はソーシャルサポートとしてみなせば、まずは4つ目の「道具的サポート」になる。
- ・衣類を必要なものと不必要なものに仕分ける仕事をしているが、具体的な労働力を提供する道具的サポートを行っている。
- ・この会員さんに限らず労働力を提供しているということで、シルバー人材センターの会員はどの人も道具的サポートを提供する役割だといえる。
- ・そして、5つ目の「社会的コンパニオン」という機能もこの場面では重要だったといえる。
- ・一緒に仕分け作業を行い、思い出話に耳を傾けている。
- ・シルバー人材センターの会員は社会的コンパニオンとして依頼者に寄り添い、なおかつ相手に重荷にならないような存在である。

#### ◆まとめ◆

- ・シルバー人材センターの会員は一人暮らしの高齢者や障害者などのゴミ出しのように、事業者による公的な福祉サービスで対応するには費用などの点で効率的ではないもの、あるいは墓参りの付き添いなど、公的な福祉サービスで対応すべきかどうか人によって判断が分かれる要請といった、制度では拾いきれないニーズを仕事として担って地域住民を身近なところで支えている。
- ・つまり地域福祉を担う大切な存在である。
- ・このようなニーズを仕事にして配分金を得るという側面と、地域住民に喜んでもらえるという生きがい就労という福祉的要素を兼ね備えた存在を体現していることが分かる。
- ・「遠くの親戚より近くの他人」とはよく言ったものだ。
- ・ソーシャルサポートという概念から、シルバー人材センターの会員の仕事を分析してみたが、会員の仕事を通して、そして地域の居場所の意義を語る住民の言葉から、もう一つ「おしゃべりする」「おしゃべりを聞く」という新たなソーシャルサポートを提案する試みをしてみたいとも思わされた。
- ・話をする、会話をするということは、人間にとって当たり前の行為。
- ・しかし、これだけ会話する機会を失っている現在、実はおしゃべりは体験することが困難な、ある意味「ぜいたく」になってしまったのではないかと感じた。
- ・今後はおしゃべりが日常生活の中でどのように位置づけられるのかを検討していきたいと考えている。